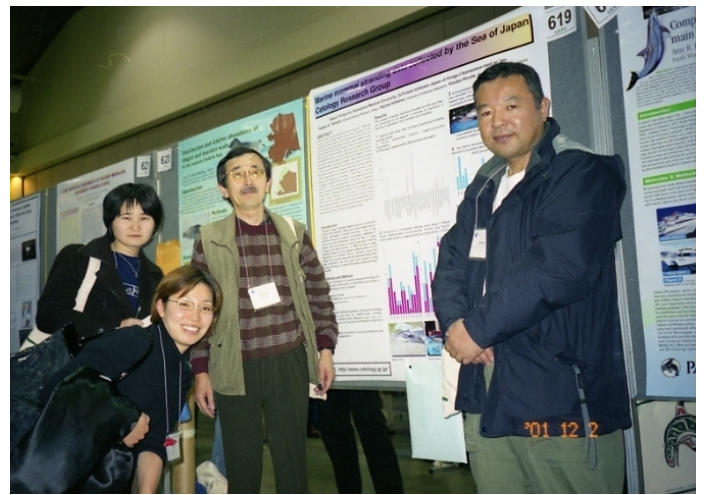


「第14回海棲哺乳類学会大会」セト研ポスター発表の経緯

金沢医科大学 平口 哲夫

セト研第12回大会の総会で承認いただいたように、2001年11月28日～12月3日、バンクーバーで開催の14th BIENNIAL CONFERENCE ON THE BIOLOGY OF MARINE MAMMALS（直訳「海棲哺乳動物の生物学に関する隔年会合」、通称「海棲哺乳類学会大会」ということにしておく）において、Marine mammal stranding data collected by the Sea of Japan Cetology Research Group と題するポスターを代表者・漂着専門委員長・副委員長4名の共著で発表いたしました。この発表は、漂着海棲哺乳類の調査に直接携わっている専門委員がファーストオーサーになるのが本来だと思いますが、委員長が別の発表でファーストオーサーになっており、重複は認められないことから、急遽、セト研代表がトップに名を連ねることになった次第です。

外国出張しにくい時期でしたが、ファーストオーサーが欠席するのは好ましいことではありませんから、締め切り間際に参加申込みをしました。なんと、その直後の9月11日にニューヨーク貿易センターの衝撃的なテロ事件が起きたのです。出張許可申請を勤務先に提出したところ、アメリカでの学会出張を予定していた人たちはどんどん取りやめになってるよ、と事務員に冷やかされました。しかし、行くこと以上、なんとしても成功裏にと、英文原稿にも事前に目を通させていただき、また、ポスター発表とは別にセト研を海外で紹介する英文案内も作成しました。これらはセト研のホームページに掲載してありますから、ぜひご覧ください。



ポスター「セト研収集の海棲哺乳類ストランディング」（発表者：平口、山田、石川、蛭田）の前で（右から蛭田、平口、田島、新井）、2001年12月2日撮影

ポスター発表の会場待機時にサポートして下さった田島木綿子会員によれば、来訪者が身を乗り出してポスターを熟読する様子にストランディングへの関心の高さが感じられ、また、特に興味をもたれた項目は、どんな種類があがっているのか、混獲と自然漂着の比率はどの程度か、漂着地に地域特異性があるのか、などであったとのこと。なお、ワシントン大学人類学部のMichael A. Etnier氏（同大会で動物考古学的発表をした唯一の人）から私に届いたEメールには、「あなた方のストランディング情報は、動物考古学にとって非常に役に立つと思う」と記されてありました。



日本からの参加者が集合、2001年12月2日撮影